

平成 21 年 12 月 24 日

## 平成 20 年度 学校自己診断アンケート(保護者)結果のまとめ

学校自己診断係

### I. アンケート全体から

平成 18 年度に実施したアンケートとあまり大きな変化はしていません。全体として、9 割以上の保護者が「児童生徒は学校へ行くことを楽しみにしている。(項目 4-1) A(当てはまる) B(やや当てはまる)」「和泉養護学校に入学させてよかったと思っている。(項目 4-6) AB)」とされているようで、ほぼ満足していただいているようです。その反面、「児童生徒の生活・学習の場として、教育環境(校舎や設備など)が適切に整備されている。(項目 1-1)」の項目で C (あまり当てはまらない) D (当てはまらない) が 4 割弱、「児童生徒の学習に必要な教材・教具が適切に準備されている。(項目 1-2)」では CD が 2 割強、「学校の施設や設備は児童生徒の安全に十分配慮されている。(項目 1-3)」では CD 2.5 割と、施設・設備に関する項目では厳しい結果になりました。

その他、多方面から貴重なご意見・アドバイスをいただきました。これらを参考に継続して検討・改善していきたいと思っています。

### II. 各項目への回答から

#### 1. 学校の施設・設備に関するもの

＜項目 1-1＞「児童生徒の生活・学習の場として、教育環境(校舎や設備など)が適切に整備されている。」

小・中学部で、AB という回答が 5 割強で CD が約 4 割、高等部においては AB が約 6 割、CD が 3 割強という厳しい結果になりました。前回アンケート結果より若干は改善されている面があるようですが、学校全体として、深刻な教室不足、施設の老朽化が進んでおり、今後、平成 22 年度より大規模改修に向けて検討を進めていきたいと考えます。

＜項目 1-2＞「児童生徒の学習に必要な教材・教具が適切に準備されている。」

全体の 7 割弱が AB、2 割強が CD、1 割弱が E(わからない)で、個々の児童・生徒に応じた教材が不足していると感じている保護者がいるのに加えて、保護者に教材・教具を知っていただく機会が授業参観程度しかないためだと思われます。

＜項目 1-3＞「学校の設備は児童生徒の安全に十分配慮され整備されている。」

全体の 6.5 割が AB であるが約 2.5 割の保護者が CD と、児童生徒の安全面での不安を感じておられるようです。「児童生徒数に比べて敷地および校舎が狭い」「塀が低いため外へ出てしまう可能性がある」「校門から出てしまう可能性がある」等が考えられ、項目 1-1 の校舎・設備面の問題とも絡み合っていると思われます。特に中学部においては CD 3 割以上と不安を感じている保護者が多く、中学部という生徒の特性と分散した教室配置にも原因があるのではないかと考えています。

＜項目 1-4＞「本校のスクールバスに安心して乗せることができる。」

スクールバスに関しては、ほぼ安心して乗せていただいていると考えています。

#### 2. 教職員に関するもの

＜項目 2-1＞「教職員は児童生徒の障害についてよく理解している。」

教職員の障害理解については 1.5 割の保護者が CD で、「障害を理解し、子どものことをわかってくれている先生が少ない。」「障害を理解している人とそうでない人の差が激しい。」と感じておられるようです。今後より一層、障害理解の研修を推し進めていきたいと思

＜項目 2－2、3＞「教職員は学習内容や学校生活の様子を連絡帳や学年便り、学習の記録などによって、よく知らせている。」「学校・担任は保護者の質問や相談に適切に対応している。」

この両項目については、ほぼ良好なのですが、D 当てはまらないと考えておられる保護者も数名おられます。今後もより一層信頼を深めるように努めていきたいと思っています。

### 3. 教育内容・学校の体制に関するもの

＜項目 3－1＞新項目「個別の教育支援計画（目標・内容等）策定にあたって十分協議がなされている。」

AB で 6. 5 割、CD2 割弱、E わからないで 2 割弱という結果から、個別の支援計画策定にあたって十分協議がなされていない、あるいは、よく理解できていない保護者が多いことがわかる。教職員に対するアンケート結果と若干の差が見られ、認識の違いが確認されました。今後、個別の教育支援計画について、わかり易く説明していく必要があると考えます。

＜項目 3－2＞「学校・担任は児童生徒の障がいにあった指導内容や指導方法を工夫して適切な指導をしている。」

AB で 8 割と概ね良好であるが、しかし、その反面 CD 合わせて 1 割もあり、これからはさらに児童生徒の指導について研究・工夫をしていかなければならないと感じています。特に「小中高における職員の相互理解を深める学校づくり」や「学年が替わるごとにしっかりした引継ぎを」等、教職員間の連携に関するご要望がありました。今後さらに、学年・学部を越えた教職員間の連携にも取り組む必要があると感じています。

＜項目 3－3、4＞

この両項目については、ほぼ良好なので、今後も「仲のよい学習集団づくり」や「児童・生徒の障害に応じた特別活動の計画・実施」を推し進めていきたいと思っています。

＜項目 3－5＞「学校は進路についての情報をよく知らせ、進路指導を計画的に行っている。」

進路に関しては各部で温度差があり、小中学部では E(わからない)がそれぞれ 2 割強、約 1.5 割と多く、高等部になると 1 割に減っています。また、高等部では 8 割が AB ですが、逆に CD も 1 割弱であり、情報量の不足や進路指導に関して不足を感じておられるようです。今後は小・中学部から高等部を見据えた進路に関する情報提供や働きかけを行っていくとともに、さらに高等部段階でのより細かい情報提供やきめ細かい進路指導を目指していきたいと考えています。

### 4. その他

＜項目 4－1、2、3＞「学校へ行くこと」「給食」「参観」

大部分の保護者が AB と良好でした。

＜項目 4－4＞「学校は、地震や台風などの場合の対応について、児童生徒や保護者に行動マニュアルを知らせている。」

2 割強保護者が災害時の安全について、学校の対応が遅れている、あるいはわからないと感じておられるようです。さらに、災害時の対応について、情報が浸透するよう努めていきたいと考えます。

＜項目 4－5＞「学校は医療機関、子ども家庭センター、地域、その他の機関と連携して児童生徒の支援を進めている。」

5 割が AB、2 割が CD、3 割が E で、学部間での温度差もあります。保護者が医療機関などとの連携、地域(役所・学校)との連携について、保護者への説明、情報提供が十分なされていないとかんじます。これから支援部を中心に取り組んでいきたいと考えます。

＜項目 4－6＞「和泉支援学校に入学させてよかったと思っている。」

大部分の保護者が AB と良好です。引き続き「入学させてよかったと思っている」学校を目指して取り組んでいきたいと思っています。